

(議長)

次に、政策推進課所管の予算並びに関連議案について、補足説明を求めます。

「政策推進課長」

「政策推進課長」(補足説明)

それではあの政策推進課の所管分の部分あの文書広報、企画、統計調査ということになりますので、予算資料に基づき説明します。

予算資料、あの薄いやつ、これが予算資料の7頁をお開き下さい。7頁になります。それから、予算書の方は後でまた頁言います。予算資料7頁のナンバー16の文書広報費でございますけれども、予算額422万6千円。町広報の印刷、編纂、配布に係る経費であります。前年度と大きく変わってございません。

次に同じく予算資料7頁のナンバー28から企画費の主な事業が記載されております。ナンバー28の農水産特産品開発、販路拡大対策、327万1千円でございますが、中身を言いますと1つは海の駅開陽丸のアンテナショップ、「ぶらっと江差」への運営費として200万の補助でございます。前年度150万に対して、50万の増額計上でございます。アンテナショップの方も開設3年目になる訳でございますが、ひとり立ちできる採算性が取れるのかどうかの、この25年の1年間の経営をして頂いたところでございますが、改善等しなければならぬ課題もございまして、前年度同額の支援では課題の解決にも繋がらないことや、収支状況の決算等も踏まえて、採算性も難しい運営が見込まれると判断し、50万の増額したものでございます。もう1つ、水土里の会の方につきましては、昨年度は200万程度の予算化をしてございましたが、26年度は120万ぐらいになろうかと思えます。約80万位減額をしてございます。ある程度加工用の機材や資材とも整備できましたので、減額したということが結論的なことでございますけれども、主なこの水土里の会の質、中身の部分言いますと、色々な商品のこの表示の義務化と言うか、そういったところに含めて、商品表示のための成分分析経費やあの包装袋などの消耗品、それから催事への出店旅費といった、必要最小限の経費の予算計上に止めたところでございます。以上の2本の事業合わせて327万1千円の予算計上でございます。それから財源内訳の中にあるその他財源、320万という風に記載されておりますが、これは過疎対策事業債のソフト事業として、過疎地域自立促進基金を活用するものでございます。

次ナンバー29の情報発信強化対策、50万4千円でございますが、25年度に於いてホームページのリニューアルを行い、この4月1日から新しい内容になります。26年度の予算化50万につきましては、4月から早々に新しく

なったホームページの更新をきちんとやるが必要になりますので、職員の更新作業研修を徹底するため、事業者に作業研修を委託する経費とリニューアル後のまあ一部更新作業を含めて、あと外国語対応の業務委託、それらの経費であります。

次ナンバー３１の乗り合いタクシー運行ですが、これは鹹川・朝日地域の乗り合いタクシーは昨年の７月から、予約制に運行変更しました。毎日運行ではなく、あの予約のあった実働運行の事業費となりますので、前年度の予算１４２万２千円が約半分の７１万７千円に減額になったところでございます。

次にナンバー３２、開陽丸青少年センター補助ですが、予算額１，８２０万６千円でございます。この１，８２０万６千円の内訳は、厚い方のこの予算書４５頁をちょっとお開き頂けますか。４５頁の１９節に記載しておりますが、運営費補助が１，５０７万４千円と補修修繕費３１３万２千円という風になってございます。まずあの運営費だけの前年対比で約２７０万円程度増額となっております。開陽丸管理棟リニューアルをした２４年度から入館料７００円を５００円に下げたことで、２３年度の方と比較して３千人ほどの入込み、この２４年度、約１万９千人台の入館者に増えた訳ですが、そして現在２５年度も１万９千人台をキープしている施設となって、一定の効果を生んでございますけれども、この入館料の値下げによりまして、観覧料収入は実質的に減収となっている訳でございます。また２４年度と２５年度にも運営費の不足が生じてございました。これ基金からの繰り入れをして賄ってきておりましたけれども、基金残高も少なくなってきたというところから入館料の減収分と運営費不足をカバーする必要があるため、増額したところであります。それから、施設側には入館者増による繰越利益が発生するよう運営努力を指示したところでもございます。また補修修繕費につきましては、今後考えられる大きな補修の課題はマストという答弁を前の議会でも私答弁した記憶がございますが、施設の再点検をする中で排気ダクトの腐食などが、ブリッジに上がる観光客には目に付く場所ということで、これから新幹線対策もありますし、観光客を迎える側として早めの修繕をした方がいいという風に判断しまして、今回予算、修繕費の予算計上をさせて頂きましたので、ご理解をお願い致します。

次ナンバー３３、協働のまちづくり補助２００万ですが、ここも前年度対比で１００万の増額をしております。補助金はあのこれまで予算１００万円の範囲内で補助要綱に沿ってある程度の弾力的な補助をしておりますけれども、補助対象事業の中で特に地域特産品の開発や磨き上げ、販売促進など、産業振興に期待できる事業、分かりやすく言いますと、地場の農水産物を使った商品開発のために資機材、そんなに高価な、高いものではございませんけれども、資機材等を整備する場合、予算の範囲内ではありますが、対象経費の３分の２以内

で補助することを少し強化したいということで増額したところでございます。製造事業者も限られている現状にございますけれども、商品開発の意欲を喚起する目的で取り組みをしたいと考えております。

企画費、最後でございますけれども、ナンバー34の企画事務、306万1千円でございますが、特別職の陳情・要請行動の旅費などで前年度と変わってございません。306万1千円のうち、150万3千円はふるさと応援基金の積み立てであります。

最後に議案資料8頁、議案資料8頁のナンバー61ご覧下さい。各種統計調査費、135万4千円は各種統計調査の費用で、全額道支出金で賄われます。

歳入の方は殆ど変わってございませんので、以上であの政策推進課の関連の予算概要についてご説明を致しました。はい。ご審議・議決方よろしくお願い申し上げます。

(議長)

説明が終わりましたので、質疑を許します。

質疑希望ありませんか。

「飯田議員」 ああ、「萩原議員」、「萩原議員」

「萩原議員」

1点だけ質問致します。ふるさと納税についてなのですが、最近、情報番組等で何かふるさと納税についてよく目にするのでありますが、まあふるさと納税ということで、納税した人が所得税や住民税が控除されるということと、あと最近では各町内、各自治体で色々な催しで特典を付けるということをやっております。その町の特産物を送ってあげたりするということもやっていますし、また、インターネットでする、ネットでふるさと納税と検索すると一番最初にその全国各地の本当に特典、が出てくると言うくらいふるさと納税に関しては、ある程度注目されてあの特典に関しては注目されていますけれども、今後江差町でその特典等に関しての考えはあるのかどうかお聞き致します。

(議長)

はい、「政策推進課長」

「政策推進課長」

実はあの昨年、庁内の何人かの課長方でこの処分、基金の処分の委員会も開いた時にこの増額対策も併せて検討しました。その時には色々色々な意見もあって、現在に至っている訳ですが、結論から言いますと改めて4月以降庁内

の何人かの課長方・主幹・係長方も入れながらですね、この増額対策も含めて検討する予定でございます。それで、私ども実は調べております。新聞報道でも本当にある通り、全道１７９町村中、特典有りが実は５８市町村。私の調べた範囲では約３割。３割が新聞報道にも載りましたが、道内ではあります。総務省の調査でも、特産品のこの対応している自治体が多くある状況もありまして、あの私どもも若干前向きに４月以降この特典のあり方、全て２千円以上の方全部にあげるということにはならないとは思いますが、大口の寄付者、まああの還元額も定めながらといった形での地場産のＰＲも含めた中でどう取り組むか、増額対策をどう取り組むか検討させていただきます。以上です。

(議長)

はい、いいですね。

「萩原議員」

はい。

(議長)

はい、「小野寺議員」

「小野寺議員」

先にこれは政策推進課、推進になるかどうかでちょっとお聞きしたいのですが、トヨタ関連。あの実は今回資料要求で物産品販路拡大事業の取り組みということで出しましたら、(追分) 商工観光の方からあの問い合わせも含めて資料が出てきました。その中で私の問題意識でトヨタ関連も含めてだったのですが、それも商工観光の方から出てきたのです。で、この場でトヨタ関連のこと聞いていいのかどうか、いいのですか。商工。なるほど。了解。今のトヨタ関連で言うと町政懇談会の所管課はトヨタ関連については政策推進課で答えてるのですけれど、その整合性はどうなるのだろうか、それ教えて下さいね。まあいずれにしても、商工で聞けばいいのですね。いいのですね。

それでまず順次、広報広聴、２つあります。１つはホームページ先程、新年度の予算のことお話ありました。で私この間ホームページについては色々提案的なことも含めて質疑させていただきました。端的に言って、まあなかなか見栄えというか使い勝手というか改善の、があるだろうということで今回、もう少し教えて頂きたいのですが、その最終的には委託の部分と、あと庁内の色々な、どういうふうに意見を吸い上げるのか先程の話ですと一定の部分はやるみたいですが、１回作ってからあとずっと更新する時にはどこまでその庁内の体制、

問題はあの一定の部分を作り替えたとしてもその更新の時に全部委託するのかな、ちょっと良く分からないのですが、どういうふうにしていくのかちょっとお聞きしたい。で併せて私決定的にはですねやっぱり、あの利用者というか、町外の方までとは言いませんけれども、町内の方の利用者の意見も少し聞いてみたらいいと思うのですよね。結構見えていますよね、ホームページ。あのまあアクセスどれぐらいかっているものもありますけれども、町民の意見も聞きながらこんなような改善ということも含めて、やったらどうかと思うのです。ホームページ見る人は多分、余所の町も色々な意味で見ているのですよ。江差町だけのホームページ見るとは、そうなかなかいない。色々なもの見て、江差町を見る。私も本当に余所の町と比べて色々な意見はありますが、とりあえず、どういう対応なのか、が1つ。

それから、ついでにここで、ここでいいのかな。マスコミ対応。ずばりお聞きしますが、当然開かれた町政としては、あの特段問題ない限りどのマスコミにもきちっと対応していると思いますが、念のため確認したいと思います。それから2つ目。情報発信というのはこれ、もしかしてホームページのこと言っているのでしょうか、情報発信。ちょっと違った、これもしかしたら情報発信ということでW i - F i（ワイファイ、無線でネットワークに接続する技術）を聞こうと思ったらこれ商工ですかね。前商工でやり取りしていましたけれど、私としては情報発信ということで聞きたいと思うのだけど。これ商工。うん、どうするかな。聞いていいのかな。

（議長）

質問して下さい。

「小野寺議員」

商工で多分中心になると思うのですが、訪れた主には訪れた観光客だろうとは思っているのですが、今結構ですね、私びっくりしたのですが、町民の人でもW i - F i使っている人いますね。私はまだ使っていないのですが、そういう意味では、この前、前回は商工で一定の試験的な取り組みの話もありましたけれども、きちっと町行政としてこのW i - F iをどうするか。端的に言って、アクセスポイントというか、一定のあれ範囲に1か所作れば20mぐらいでしょうかね、あれを自治体によっては無料のW i - F iを設置してもうすべからく使えるような所どんどんどんどん増やしていくと。それをやっていかなかったら民間で一定程度やっちゃったら、有料も含めて、ちょっと面倒くさいのですね。色々、アクセスポイントが出てくると。そうすると、情報発信という意味で観光客対応もしくは勿論一般町民も含めて総合的にどう考えるか

というのをこれきちっとやっていかなければならない。ばらばらな対応ということにならないと思うのですが、お聞きしたい。商工なら商工でまたと言って下さい。

それから次も特産品関係でこの会計予算資料でいうと28と182。28は企画ですよ、商工課、あの政策推進ですよ。それで182、182が商工で、これがまさしくトヨタ関連も含めれば商工なのでしょうけれども、今、政策推進でいうと、「ぷらっと」。「ぷらっと」に関して特産品だということになるのでしょうか。あの商工の特産品関係と政策推進の特産品関係がだぶっても両輪で進めていくということがあるかもしれませんが、私としてはなかなか整理しづらい。さっき言ったトヨタ関連もそうなのですから、私はもう少し一本化してもいいのかなという気はするのです。そこら辺、主には観光だと思いますので、そういう私のあの想いもあるということも含めて、そちらの対応の「ぷらっと」だとかについてお聞きします。で、「ぷらっと」に関して言うと、1つは「ぷらっと」だけには、「ぷらっと」だけで何とかなるということにはならないと思うのですが、先にまず「ぷらっと」だけについて聞くと、この間、町政懇談会でしたか、あの店員の対応についても意見がどこかで出ていたかと思うのですけれども、でこの議会でも出てました。私も「ぷらっと」は年に5・6回は行きます。あの実はふくしまキッズの関係で、かなりあそこ子ども連れて行って買っておりますし、あの色々な親族来た時にはもう必ずあそこに連れて行って、ですから色々な意味で「ぷらっと」について想いはありますが、1つは、1つはやっぱり、商売。商売としてのその店員の対応というか、やはりねえ、あのきちっと商工会の委託でしたか、委託なのでしょうけれども、やはり町としての一定の考え方として「ぷらっと」の位置づけしなければならないと思うのですが、その点ちょっとお考えをお聞きしたい。それから、じゃあ「ぷらっと」だけであそこで何とかなるかといったらもうならない。先程の「ぷらっと」の経営が大変だということがありました。そういう点で言うと、この間、政策推進でも言われております、開陽丸周辺の賑わい。あそこに一定程度、かもめ島入口から開陽丸も含めて賑わいの場を作らなかつたら、結果的にはこの「ぷらっと」だってお客さんが来ないだろうと。店員さんが一所懸命頑張ったとしても、限界がある。やはり、かもめ島入口から開陽丸、そしてかもめ島そのもの、あの周辺の賑わいをどうやるか、どうやってお客さんを引き込むか、連れてくるかにかかってくると思うのです。で、その点で、本当にこれ関係課の繋がりというのが大きいと思うのですが、水産との繋がりもありますが、港湾。ここ何かやろうと思ったら港湾の計画の見直しと密接ですが、やはり政策推進としてあそこどうするのだという意味では、きちっとした考え方を持たなければならないと思います。で今回のあのコンサルにこれ入っていたんです

か。あの先程、昨日のお話ですとコンサルの商品はもう出ていると。でこれから新年度に向けて職員も集めて対策をとると言いましたが、確か賑わいということではこれもコンサルの中に入っていたのでしょうかね。それでこの1・2年、何とかしなければならないということを論議されていました。私はかもめ島の入り口も含めて江差町としていわば再開発というか、江差町の観光新幹線の開通した後の少しでもお客さんを引っ張ってくると、観光客引っ張ってくるにしても1つの、一定のまちづくりを何か拠点的にやるとすると、あそこの再開発ということが1つの重要なポイントだろうと思うのです。その点で改めて、この間論議になっておりましたけれども、かもめ島入口のどうするんだと、開陽丸も含めて、「ぷらっと」も含めて、これは政策推進としての一定の考え方がなかったら（農林）水産課の方だって動けない、商工だって動けない、と私は思うのです。その点についてお考えをお聞きしたい。

最後。江差ウインドパワー。しばらく聞いていなかったもので、決算書来たらまたその点でお聞きしますが、ここでお聞きしたいのは1点だけです。あと何年ですか。3年、4年。あの前のお話では残念ながら、現時点でも、解体費は生まれまいだろうということについては出てきております。どうするのか。解体費について今からしっかりとした考え方をしないと、あのちょっと大変だなと思うのですが、これは役員会等々でどのような論議されているのか、お聞きしたいと思います。以上です。

（議長）

はい、「政策推進課長」

「政策推進課長」

小野寺議員、あの答弁漏れありましたらちょっとご指摘下さい。あの順番に行きます。ホームページの関係のいわばリニューアル後の、これからの更新の関係でございます。あの実は更新作業含めてこれまでは、私ども政策の広報広聴の担当1人というか委ねられているところがあって、各課にはその都度周知をしながら更新画面を、徹底もしているのですが、実際にはうちの方でやっている。これが、このリニューアルに伴って各課で可能な更新作業、いわば難しい作業にはならなくて、容易な更新作業になるということ、ただ問題はいつでもこう簡単にできるということにはなりませんので、情報の管理の関係がありますので、この更新の関係のマニュアル含めた研修を4月以降、きちっと徹底するということです。それから、町内の利用者にもこのホームページの関係を聞くべきだと、こういうことでございますが、4月からの新しくなったホームページになる訳ですけれども、ホームページに限らず実は広報のですね、毎月

出しているこの4600部の広報の誌面の部分も、庁内の若い職員を中心に広報編集委員会を作って毎月どういった広報にしようかということで庁内で実は積み上げを、広報、まあ一課だけでやらずにですね、あの色々な行政情報がたくさんあふれる中でどう整理するかもなかなかままならない部分もあるのですが、あのできるだけ、ページ数も限られた14ページ程度の中でどう積み込むかということで、非常に積み込み型の広報になっている現状も私ども反省してございますけれども、広報の毎月聞くという意味ではなくて、年間に1・2度になるのか、広報の誌面を含めてこのホームページ新しくなった後も含めて、町民から意見を、委員を委嘱するとは考えてはございませんけれども、そういう、ホームページ、広報の意見を聞くような工夫は取りたいなとこのように思っています。

それから、マスコミの対応と言いますと、小野寺議員どういう趣旨でございました。マスコミの対応というのは

「小野寺議員」

議事進行でちょっと説明していいですか。

(議長)

はい、「小野寺議員」

「小野寺議員」

ここで、ここだけで議事進行で。特定のマスコミ関係者を取材に応じないということはないでしょうね、ということであります。はい、すいません。

(議長)

はい、「政策推進課長」

「政策推進課長」

それはございません。ええ、きちんと対応しております、はい。

それから次、あの情報の発信。Wi-Fiの関係でございますが、これ、あのちょっと、私ども政策あのホームページを持っている情報ということでございますけれども、観光情報の方とかなりそっちに力点掛かるので、観光のまた予算質疑の時にされても結構なのですが、少しあの協議をさせて下さい。あの観光の方と。そういうことでご理解下さい。

それから特産品の絡みで、実はこの色々国の総務省の事業を使ったり、厚生労働省の事業、いわば10分の10の100%の事業を立ち上げるに当たって

は、「ぷらっと」、水土里の会、トヨタ関係含めて政策で実は一括束ねたということです。この基盤作りも含めて。現時点では、あの国の補助が無くなった状況の中では、政策で今担当しているのが「ぷらっと」と水土里と、こういうことでご理解下さい。それでトヨタ関係については（追分）商工労働の方で25年度から取り扱ってございます。そういう整理をまず今はしております。ただ、小野寺議員が仰る通り、基盤整備もある程度できて、これからどう動かしていくのかという、この「ぷらっと」と水土里の会の運営、いつまでも政策で持っていえるのかという議論も当然あると思いますので、これらについては今後の検討課題になろうかなという風に思っています。それから「ぷらっと」のこの店員の問題も率直に質問頂きました。私の方には、実は数多くの実は色々な情報が町の方からも頂いております。私の方にも直接頂いております。あのそれで、今回増額したからそれで解決するというものではございませんが、25年度は国の補助が無くなって独立独歩でどれだけ取れるのかということで、商工会の中心にまたあの組合の出店者の代表者中心に、できるだけあまり口を挟まない状況の中で、時々挟みましたが、やって頂いた中で1年間見てきた訳でございしますが、26年度についてはやっぱり店員の問題も含めて、これは賃金の額にもよって色々ですね、安いやっぱり賃金で雇わないと採算性とれないという、そういうしがらみの中で色々苦労してやってた実態もございまして、多少なりとも賃金を少し上げながら固定した店員、店員の固定化だとか、色々改革改善する点があるので、26年度は政策としてしっかり関わって改善をしていきたいと、こういう想いでおります。

それから、次開陽丸の賑わいの関係でございしますが、これは小野寺議員も仰る通り、それから、昨日大門議員の一般質問であの答弁した部分もございしますので、拠点、観光拠点となる部分の関係がいわばこのかもめ島周辺、開陽丸含めた所になります。課長方皆で検討して、あの今ここであのどうだこうだという具体的なものは申しませんが、ある一定のソフト事業等も含めてあの町長の方に今月末には提言をして、4月以降どういう事業が本当にできるのか、そういう選択含めてやっていくことだろうという風に思います。港湾の計画との兼ね合いについては勿論コンサルともやっておりますし、この市街地活性化検討委員会の中で拠点としてあそこの周辺はあるべきだと、そういうことでありますので、ただこれもかなり軽率な発言はできませんけれども、やっぱりハードルも色々ある訳ですが、この機会にいわば港湾計画の見直しに少しでもこの検討委員会たる課長方の意見として動かしをしたいなとそういうものにしたという風に思います。私の方からは以上で、ウインドパワーの関係は副町長よろしくをお願いします。

(議長)

はい、「副町長」

「副町長」

あのウインドパワーの現在ある28基のその風車の解体の議論というのは役員会ではまだ具体的なテーマにはなっておりません。ただ、基本的にはこれまでずっと町の方針というか考え方はお示しをしてきました。基本的にはこの風力発電事業はですね、現在のウインドパワーに関して言う限り、いつまでも第3セクターで町が公に関与する必要性は非常に低いというような判断をしてございます。で、ここで隘路って言うか、議論の隘路になるのはですね、あの要するにその経産省の方の財産処分制限17年の年限と北電との売電契約のその20年、これの終点が違うのですよ。で終点が、終点というか終わりの地点が、それでその、北電の方はもし計算に間違いなければ平成33年まで。それから経産省の財産処分制限が掛かる17年が経過するのが29年なのです。平成29年で終わるのです。だからこの時点で、もしも補助金の返還が一切ないって言うか、それまでに、発生しないとすれば、この段階で平成29年の段階で第3セクターを解消するということを決断するのか、それは少し先のことから、どういう形になるかというのが今段階私の方で責任持って発言できませんけれども、そういう選択が迫られるだろうという風に思います。ただ、私どもは基本的には町の方針としては今の江差ウインドパワーに関して言う限り、町の方が関与して第3セクターで引き続き将来ともあの引き続きやっていくということは必要ないという風な判断を持っています。

(議長)

はい、「小野寺議員」

「小野寺議員」

あの、時間ないので2つにします。今のウインドパワーなのですが、時間がまだ先だというようなニュアンスで仰いましたけどね、あの29年の方をもし視野に論議したら、今年で26年だからあと3年。すぐですよ。問題は今のところ解体費にいくらお金が掛かるかという一定の見込みの部分と、現時点ではまだあの江差町としての大株主という位置づけ、ここはきちっと我々に対してもどうなのかということを私自身が理解していない部分もあるかもしれません。そこをはっきりしながら、この残された3年間でどう論議していくかということは今から、あの役員会等で話し合いしなければならないのではないのか、というのが私の考えなのです。その点について私自身の理解不足の部分

があるかもしれませんので、教えて頂きたい。

あと、ホームページ。あの実は再質問で町広報との関連で聞こうと思いましたが課長が先に、あの答えてくれましたので、まさしくあのメディアで言えば本当に町広報もホームページもある意味では一体ですね。その点で、今お話もありましたその内部の委員会等でホームページも町広報もある意味では発信、町の情報を発信するという意味では一元的にやっていくのでしょうかと、いうことちょっと再質問で聞きたかった。さっき、似たような答弁もありましたけれども、改めてその関連できちっと統一的な運用を私としてはしていくべきだと思いますが、その点について改めてお聞きしたいと思います。

(議長)

はい、「副町長」

「副町長」

見通し的に言うと平成29年で解体あのスケジュールということには恐らくならないだろうという風に。33年まで北電との売電契約がある訳ですから、あのそれまでにいわゆる今の言葉で言うと長寿命化計画を立てながらですね、現在の課題はやっぱり28基全てを回すような修繕をしようということで今取り組んでございます。町の広報の一番最後のところに、それぞれの毎月の売電収入の状況もお知らせして、ご案内だと思うのですが、今期に限って言うと非常に28基のうち27基が一応回転しておりますので、非常に収支的には順調にいてございますが、それがただ今年に限って言うと、あまり落雷の被害が今回発生はしなかったとか、そういうその条件もある訳ですから、一概に見通しを確立した見通しを立てることというのは難しいのだと思います。ただ、今ウインドパワーとしてのその収支的な課題というのはやっぱり北電に対する支払いを、これをきちんと、もちろん税金は第1ですよ、あの町税を支払ってあの頂くということは第1優先順位ですが、それ以外にですね、北電に対する毎年、5千万だったか、5千万程度の償還がある訳ですから、それをきちんとまず成し遂げて、社会的な責任をまず果たすということを基本にあの議論しております。ただ解体の経費についてあの無頓着であるという訳にはいきません。大体非常に、あのきちんとした見積もりとっている訳ではないのですが、概ね5億円くらいの解体費が必要ではないのかというような試算はしておりますが、これはあまりはっきりした根拠のある数字ではありませんので、あのそこだけお含み頂ければ大体その程度で概算考えているということだけ申し上げておきたいと思います。

(議長)

はい、「政策（推進）課長」

「政策推進課長」

あのホームページの関係、あの統一的な運用、まさしくその通りでございますので、あのくどいようですがリニューアル後の更新について、これがあの毎日やるという意味ではなくて、きちっと各課が係、どういった部分が更新できるあの中身なのかということのマニュアルを含めて、4月以降徹底していきたいとこのように思っています。はい。

(議長)

いいですね。

はい、次、「室井議員」

「室井議員」

いいの。すみません。

(議長)

何も飯食わなくてもいいって、何も。

「室井議員」

うん、はい。

(議長)

1回ぐらい飯食わなくても死なない。

「室井議員」

はい、分かりました。

課長からあの「ぷらっと江差」の特産品開発に関連して、色々な課題があると、いうことちょっと答弁なり説明ありましたよね。それでこれ今年度200万出して、一旦終わるような話もちょうと聞いているのですが、今「ぷらっと江差」にあの十数社入っているのですね。そうですね横山さん。横山さん分かっていますよね、「ぷらっと江差」の関係。それでこれまたね、本当に新たに、あのまた止めてまた新たに何か作ってやるといったらこれ大変なことだと思うのですね。だから色々なあの改善とかそういう余地は、あの改修あの直していく、ことはあると思うのですね。でもやっぱりベースになるものを、今頑

張っているからその町に全部全てがおんぶされるという考え方、私はこれ基本的に反対です。自分たちもやっぱり負担する、そしてその中で、新しいものを見つけていくという考え方があれば、もし、今後の継続も含めて支援を含めて、やっぱり検討していかなければならないのではないかなと思っています。

それともう1点。あの協働のまちづくりの補助、企画事務費。この辺ですね、田畑課長、あの言っておきますけれど、これ非常に江差町の、将来に関わる重要な今内容が入っていると思いますよ。今議会の説明ですから短いと思いますけれども、この辺は必要であれば、やっぱり支援していく、出張も行く、やってよろしいのではないですか。これは大いに使って、何にも、当初予算の、公費してお金あとこれしかないというような考え方が一番だめ。必要なところには、補正を組む。そのかわりこういうことを目指している、その辺のことは、やっぱり副町長、担当課と、あの協議をして、必要であればやる。私は全て、役所のお金を使わなければならない、これは止めた方がいいです。自分達も負担しますと。だから役所もこれだけのこと、応援して下さいって、これが基本ではないかと思うのですけれど、そこら辺のことを基本的なことを答弁願いたいと思います。

(議長)

「政策（推進）課長」

「政策推進課長」

あの「ぷらっと」の関係、私、色々課題があるという中身、細かいことは言いませんけれども、現在本当に頑張ってやって貰っています。中心になっている方々含めて。ただ、色々なそういった部分について、1年間、とにかく頑張ってやってきたのは事実でございますけれども、町としてもこの新幹線対策含めたいわば拠点になる場所でございますので、町としても26年度関わりを持ちながら、お互いに役割分担をしながら、そういう協議をですね、議会終わった後早々、その中心になっている方々と話し合いをしながら、そして出店者は二十何店舗になってございますので、出店者の皆さんにも通知申し上げながら、もう一度この「ぷらっと」皆で頑張ろうと、こういう意思固めを含めたあのスタートを26年度は切りたいなという風に思っています。

それから、協働のまちづくり。本当にこれまでも100万で何年か経過してきました。色々なあの財政再建もあって色々な各課の補助金を削ってここに、1か所に集めた経過もあるのですけれども、白黒はつきりさせるような要綱であれば、非常に使い勝手が悪くて弾力的に持ってきた訳ですけれども、理事者の方の理解も得ながら準骨格予算とはいえども、とりあえず100万を増額し

てこの特産品の自分も自腹を切りながらこういった商品を開発したいのだと、こういった所へ少しテコ入れもしたくて増額をしたと、こういう理由でございますので、室井副議長の意見も参考にしながら、十分この辺は考えていきたいという風に思います。

「室井議員」

うん、分かった。

(議長)

はい、「横山議員」

「横山議員」

私は1点だけ。これはこの小さい予算資料の方の7頁の28番。特産品開発販売促進対策推進に関連して聞きます。今ずっと色々皆さん議員からあの話があった通り、色々開発されているということはありません。それを「ぷらっと」などで販売しているということもあります。ただし、まず商品開発ですね。これ何年もずっと、これ重要なことですよ。確かに濱谷町長になって例えばトヨタとかいう所を目標に色々な商品開発をされて、しようとしてきている訳ですが、それが実を結んでいるかと。効果上げているかどうかということですよ。今の今までのやり方ではどうにも、あの、いわゆるきちんとした売れる商品を開発が進んでいないということが事実だと思います。努力しているということは努力は認めますけれども、あのそれがちゃんと結びついてるかという結びついていない。これは実を上げなければ、こういうことは事業としてはあの成り立ちません。ですから、それを成り立つようなことをもっと考えるべきだろうと思います。それは内部で考えるか、それか外部からの導入をとということも含めましてね、それはもう一度ずっと根本的な見直し、これは特産品開発というのは重要なことです。

先日私あの知内町のカキニラ祭り行ってきました。ものすごい人です。ものすごい量を売っています。それなりに、あんないわば、ちょっと交通の不便なところで頑張っているということは言えますね。とにかく江差町もね、もっとね、色々な知恵を絞りながら或いは色々な知恵を借りながらやるべきだと思います。その辺についての考えを聞きたい。

(議長)

はい、「政策推進課長」

「政策推進課長」

横山議員の方からもお話あった通り色々な国の制度、いわばこの財政再建をやっている最中に、国の制度を活用しながらこの基盤整備をするところから実はスタートした訳です。あのどのように、効果が表れるのかということなんですが、それはまさしく開陽丸のリニューアルで「ぷらっと」の商業者の集合体ができたとすることも1つのあれでしょう。個別の商品で言いますと、なかなか多品種小ロットでございますので、すんなりいく、いかない部分も当然ある訳ですけれども、行政が基盤整備をする上で次になるのはやっぱり生産者であり製造事業者の頑張りににも期待するところでございますので、この辺は一緒になって、また26年度以降政策としても関わって、新たな商品開発そんなに簡単にあの生めるものではございませんけれども、色々な制度活用しながらあの頑張っていくいたいなど、このようにしか今答弁できませんけれども、よろしくお願いします。はい。

「横山議員」

はい。

(議長)

いいですね。

はい、「横山議員」

「横山議員」

はい、簡潔に。例えばその財源内訳ですけどね、例えば道支出金とか、つまり補助金とかそういうものについてあの何も、あの何もと言うかな、これについてはあのないですから、もっとそういうのね、広くそういう財源的なものも研究して強力に進めて欲しい。希望で終わります。

(議長)

はい、意見としてね。

はい。他に質疑希望ありませんので

「大門議員」

はい、はい。

(議長)

大門議員、早くボタン押しといて下さい。

「大門議員」

押してたけど何か点かなかったみたい。

(議長)

「大門議員」

「大門議員」

はい、先程横山さん途中で止めたのですけれども、企画の方の旅費関係。

あの前年からいくと随分こう、１００万くらい、予算額で減ってきているのですけれども、その辺のちょっと説明とかなかったもので、これ何かの関係でか、なったのでしょうか。企画。ええ。

(議長)

はい、「政策（推進）課長」

「政策推進課長」

１００万くらい落ちている、これはあの、特産品開発の先程あの水土里の会の、大きく８０万くらい減額しましたと、こういうことでご説明申し上げましたのですけれども、はい。

「大門議員」

あ、そちらの方でこう旅費。

「政策推進課長」

あのもう基盤整備もできて、資材とも揃ったので、水土里の会については必要最小限だけの経費にしたと、こういうことです。

「大門議員」

あ、こちらから。

(議長)

はい。質疑希望ありませんので、政策推進課予算並びに関連議案についての質疑を終わります。

(議長)

説明員入れ替え、また、昼食のため1時まで休憩致します。

(休 憩)